



1986・3

第 22 号

しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



オオタカ（ワシタカ科） 冬、カモの渡来地にはオオタカが現れます。数回、カモの群の上空を旋回するだけで、傷ついて弱っているカモ、病気のカモを逸早く見つけ、これに横から攻撃をかけて捕えます。オオタカは、カモの群が、健康な個体で維持されるために必要な存在なのでしょう。埼玉県で観察出来るワシタカは10種以上をかぞえますが、これらに出会うチャンスは少なくなってきています。近年、密猟の増加のため、卵やヒナが奪われて、減少が続いているためなのです。いつまでも、その雄姿を大空に見続けたいですね。（絵と文・今井明巨）



春を色どる

日増しに日は伸び、ほお吹く風もやわらぐ季節になりました。この時期は、夏鳥が到着しはじめ、冬鳥は北国へ帰っていくところです。夏鳥を見つけた日を「初認日」、冬鳥を最後に見た日を「終認日」として記録しておくとういでしょう。

冬鳥の夏羽が見られるのもこのころです。カンラダカのオスは頭が黒くなり、シメのくちばしも鉛色に変化します。ユリカモメも頭が黒くなります。

去年のこの時期の野鳥情報を見返すと、2月10日ウグイスのさえずり、2月12日カイツブリの巣作り、3月7日キレンジャク、3月29日ツルシギ、4月5日ウソ、4月10日イソバメなどが特に目につきます。

今月号は、春を色どる鳥5種を選び、それぞれに寄せる想いを語ってもらいました。

ウグイス

田村照治（寄居町）

鶯や 日の暮るるまで 庭にあり

うぐいすの 影飛びすぎし 古障子

うぐいすの 声に箒の 手を休め

日に二度も 鶯鳴くや 背戸の藪

（以上四句自宅にて）

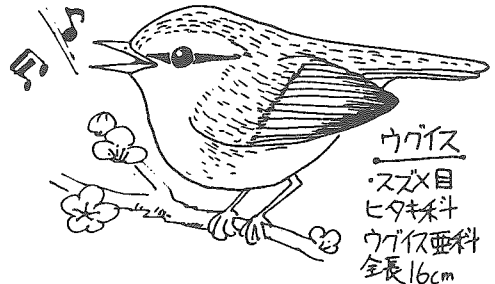
うぐいすを 右に左に 峠路

（名水湧水地付近）

うぐいすに 巡礼の列 佇みぬ

鶯の 谷渡りきく 関所趾

（以上二句秩父にて）



露天湯に 肩までつかり 初音聞く

鶯の 谷渡りきく 出湯かな

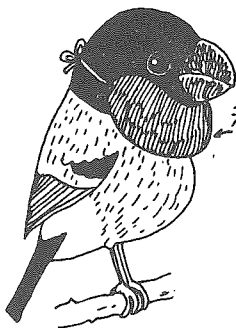
（以上二句湯治場にて）

うぐいすに ^{ひとひ} 一日遊びし 梅の里

（越生梅林にて）

ウソ

横山みどり（東京都）



ウソ

スズメ目
アトリ科
全長16cm

赤いヨダシかけ

都会暮らしの私に、春の訪れを告げるのは、狭い庭の片隅の梅であった。やせた木で、花づきも悪かったが、2月中旬には必ず、濃い紅色の花を、ぽつりぽつりと咲かせていた。

ある年、引越をした。庭は、そのままに残してきた。あの梅が今でも、新しい主人に春を告げているのかどうかは、わからない。

引越してから2、3年たった冬、軽井沢の別荘地でウソの雄に出会った。雪を冠った生け垣の奥から、突然、目の前に飛び出したのであった。頬が、雪にひととき映えていた。その色は、あの梅の紅色、冬景色の中に、春の使者が最初にともす灯の色であった。思いがけず、旧友に再会したような気持ちで、私はしばらく、その春色の頬に見入っていた。



ヒバリー

大武昭雄（浦和市）

ぼくにとってヒバリーは初夏の鳥だった。5月の麦畑の上の、まっ青な空でさえざる時だけ「ヒバリーだ！」とわかるのだから。

が、83年9月、探鳥会（浦和・三室）初参加以来、会の皆さんの望遠鏡を通して野鳥に関する目を開いていただき、85年2月5日、ぼくの常識はもろくも崩れる。小さいけれど巾広の翼を懸命にはばたいて、まだはだ寒い見沼の空にただ一羽、ピチュクピチュクと天空高くかけ昇っていく姿を見たのだ。

ヒバリーは2～3週間ごとに数を増し、その

たびに農道のあちこちにオオイヌノフグリやヒメオドリコソウが咲き、4月には田圃一面レンゲソウの紅紫で埋まってしまった。まるで、ヒバリーが春を運んで来たかのように。



ツバメ

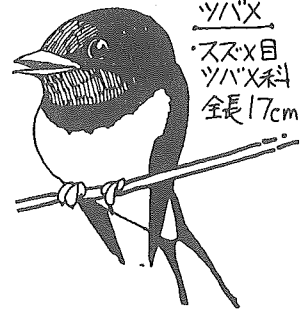
藤原寛治（志木市）

岩手では、ツバメはゆっくり渡ってきます。ところが、こちらでは一気に渡ってきます。

私の住んでいるここ柳瀬川でも3月下旬には、ツバメの第一陣がやってきます。おお帰ってきたなと思っていますと、もう翌日には町中いたる所で飛びまわっているのが見られます。春から一気に初夏になった気分です。

この辺りはツバメが多いせいか、7月になると近くのアツ原に若鳥を中心とした塒が見られるようになります。それが8月中旬にな

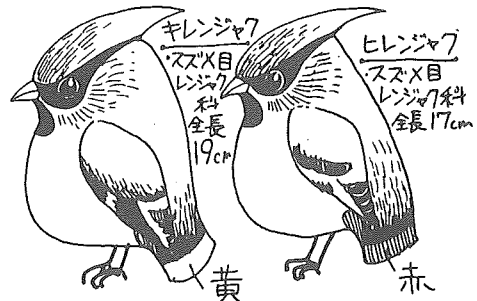
ると大きな群れとなって塒をつくります。千羽を越える群れが、塒入りの前に乱舞している様は実に壮観なものです。昔からツバメは日本人に親しまれてきた鳥です。これからもツバメの住める環境を大切にしたいものです。



キレンジャク・ヒレンジャク

福井 亘（浦和市）

僕が鳥を始めた時に買った図鑑（山野の鳥）の表紙に描かれていたのがこの鳥でした。以来“見たいけどどこにいるのかわからない”という日が続き、やがてもう半分あきらめかけていたころ、ある日突然、自宅から自転車で10分の所にある秋ヶ瀬ピクニックの森で再会することができました。やっと会えたという喜びでその時のことはほとんど憶えていません。強いて言えば、当時まだおニューだった望遠鏡が、あまりの興奮でみるみるうちに曇っていったことと、カワセミの美しさとは全く違った、自然の中に溶け込んだ、ごく自

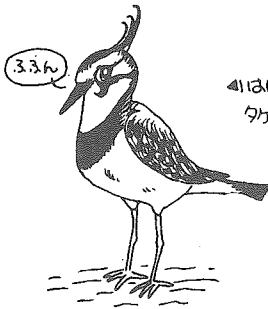


然な美しさに感動したことぐらいでした。サンコウチョウやカワセミを見た時と勝るとも劣らない感動でした。4月6日の秋ヶ瀬探鳥会には、みんなで感動したいと思います。

鳥のカット・比企 裕

探鳥会絵日記——1月5日(日) 吉見町吉見百穴周辺

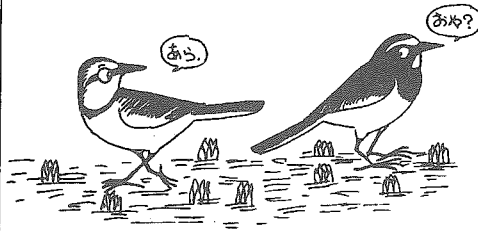
鈴木加代子(熊谷市)



3.3ん

◀はじめて見た。とてもきれいな
タゲリさん。
とても、田んぼの鳥には
見えません。

▼ひとつのしほにセグロセキレイと
ハクセキレイが両方入ったときは
感動しました!!



あら

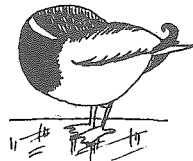
あや?



んわ、
んわ、

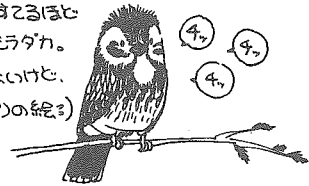
▲大沼にたくさん来ていたマガモさん。
1週間ほどた。へ行。てみたら、氷の上で
羽をたたく。元気にゆ。てました。

Σ

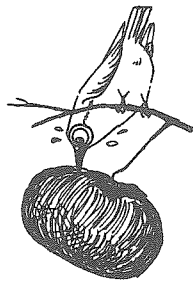


◀それにしても頭をうしろにし、ま、ま、
しほい、顔を見せてくれな。た...
探鳥会の時より、ふ。えてみたい
です。

▶それに。ほいてすぐは
たくさんした。カミラダケ。
(ふんき、出てないけど。
カミラダケのつもの結?)



カキの実に、埋まらんばかり
のメジロさん。
メジロが糞を作ること
私には全く知らな。たの。す。
は。お。し。な。が。ら。



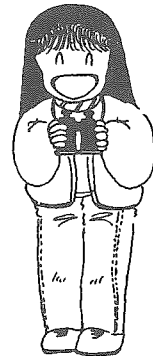
風はとっても冷た。た。け。ど、その中。で、
たくましく生きている鳥たちを見たら
心の中がじん。と。あ。た。か。く。な。り
ました。元。氣。を。ば。ん。ば。て。冬。を。越。し
てほしいです。

ひよどりさん "あーん"



注)このた。は。る。は
メジロさん

◀『柿の実。まん中のだけをと。て。
下になっている実は人のために。
上になっている実は鳥たちのために』
残りのだ。というお。話。が。印。象。的。な。り。ま。す。



◀相変わらず
双眼鏡を
借り。ば。お。し。の。私。に
ご。め。ん。な。さ。い。

1986'1.17.

Kayoko.S.

心の会の秘密——久則さんのお話を聞いて

師走の第3日曜日の午後、岩本久則さんを囲んで浦和で室内会兼忘年会が行われた。

第1部は久則さんの野鳥談義。野鳥と自然への想いと人間への共感を基本にした久則さんのお話は、ユニークな視点と大胆な問題提起を含み、またユーモアに富み、楽しい雰囲気の中にも参加者に深い感銘を与えた。

年令や職業をこえた野鳥と自然を愛する人々の集まり——野鳥の会。この会の魅力の秘密は何だろうか。久則さんの名言「野鳥の会は心の会」が思い出される。と同時に、愛読書であるサン＝テグジュペリの『星の王子さま』の一節「心でみなくちゃ、物事は見えな

い」を連想する。また同じ著者の『人間の土地』の中の一節「愛するとは互に見つめ合うことではなく、共に同じ方向を見ることだ」が心に浮んでくる。野鳥の会の多様なボランティア活動は、このような心で結ばれた人々により支えられているのであろう。



久則さんにサインをもらっちゃった

野鳥情報

バン ◇1月2日、桶川市川田谷で1羽（長野博行）。◇1月11日、北本市石戸宿で2羽（遠藤修司）。

ケリ ◇1月10日、桶川市の護摩堂沼で2羽（長野博行）。◇1月15日、北本市石戸宿で1羽（遠藤修司）。

コミズク ◇1月10日、桶川市の護摩堂沼で1羽（長野博行）。

ノスリ ◇1月11日、桶川市川田谷の荒川河川敷で1羽（長野博行）。◇1月15日、北本市石戸宿で2羽（遠藤修司）。

コチドリ ◇1月15日、大宮市深作沼で5羽（遠藤修司）。◇1月15日、大宮市の関沼で5羽（鈴木高士）。

アトリ ◇1月15日、秩父市の美の山公園で11羽（豊田 隆）。

ハヤブサ ◇1月15日、森林公園で1羽（藤原寛治）。

キクイタダキ ◇1月15日、森林公園で2羽（鈴木忠雄）。◇1月15日、三芳町の多福寺で4羽（海老原教子）。◇1月24日、川越市下広谷の雑木林で20羽（鈴木暁子）。

ビンズイ ◇1月15日、森林公園で3羽（今

井明巨）。◇1月19日、三芳町の多福寺で5羽（藤原寛治）。◇1月23日、大宮市日進町で1羽（森本國夫）。

ウソ 1月15日、秩父市の美の山公園で2羽（豊田 隆）。

アオゲラ ◇1月15日、三芳町の多福寺で1羽（草間和子）。◇1月23日、森林公園で1羽（今井明巨）。

トモエガモ ◇1月15日、久喜菖蒲公園で160羽（中島康夫）。

アメリカコガモ ◇1月15日、久喜菖蒲公園で1羽（山部直喜）。◇1月23日、森林公園の西田沼で1羽（今井明巨）。◇1月25日、大麻生で1羽（長野博行）。

オオジュリン ◇1月19日、富士見市の柳瀬川で20羽以上（藤原寛治）。

タゲリ ◇1月19日、富士見市の柳瀬川で5羽（藤原寛治）。◇1月24日、川越市下広谷の畑で10羽（鈴木暁子）。

ヒガラ ◇1月23日、大麻生の森で2羽（今井明巨）。◇1月24日、川越市下広谷の雑木林で10羽（鈴木暁子）。

ヤマガラ ◇1月24日、川越市下広谷の雑木林で1羽（鈴木暁子）。

ヨシガモ ◇1月25日、大麻生で2羽（長野博行）。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意ください。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以下＝50円

3月8日(土) 所沢市 狭山湖

午前9時西武鉄道西武球場前広場集合。
午後2時ごろ解散。(南浦和8:04→新秋津8:27着→徒歩7分→西武秋津駅8:39発→西所沢8:46着→狭山線乗換→西所沢8:52発→西武球場前8:58着)夏羽に衣替えをしたカンムリカイツブリをゆっくりとごらんください。(担当＝中島康夫)
東京支部との合同探鳥会です。

3月21日(祝) 北川辺町 渡良瀬遊水池

午前9時東武日光線柳生駅前集合(浦和8:05→大宮8:11→栗橋8:41東武線乗換8:52発→柳生9:02着)。午後2時ごろ解散。広々とした空に舞うノスリとチュウヒ、ツルギも期待できます。(担当＝海老原美夫、中島康夫)
栃木県支部との合同探鳥会です。

3月9日(日) 熊谷市 大麻生 (定例)

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合(秩父鉄道熊谷9:09発→大麻生9:18着/秩父鉄道寄居9:12発→大麻生9:32着)。カモやコハクチョウは、北国へ帰る準備をしています。(担当＝鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)

3月23日(日) 大宮市 清河寺周辺

午前8時45分大宮駅西口階段下集合。(熊谷7:57→大宮着8:38)雑木林や集落を歩きながら、冬鳥にお別れし、ツバメなどの夏鳥を迎えましょう。午後1時ごろ解散。(担当＝森本國夫)

3月16日(日) 浦和市 三室地区(浦和市立郷土博物館共催・定例)参加費無料。

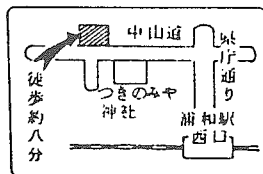
午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。ジョウビタキやツグミにお別れしよう。(担当＝楠見邦博、森本國夫、福井恒人)

4月6日(日) 浦和市 秋ヶ瀬公園

午前9時浦和駅西口バスロータリー集合。午後1時ごろ解散。ポカポカあったかい公園内の林を歩いて、ゆっくり探鳥会。アオジのさえざりが聞こえますか。あこがれのヒレンジャクやキレンジャクにも会いたいけど……会えるでしょうか。(担当＝海老原美夫、福井恒人)

4月12日(土) 野鳥写真教室

午後3時～6時、浦和市立コミュニティーセンターにて。好評写真教室の第2回目。がんばって写真をうつしていますか。もちろんマナーはちゃんとまもっていますね。あなたの写真を(できればスライド)見せてください。講師未定。(担当＝海老原美夫)



普及部から

今までの探鳥会についてのご意見、ご感想をお聞かせください。野鳥たちのため、そして自然保護のために、せいっぱいつとめているつもりですが、いろいろと……。率直なお考えをお待ちしています。

こういう所で探鳥会をやれば良いのに、そんな所がありましたら教えてください。

探鳥会でのお手伝いやリーダーをやりたい方、たくさんいらっしゃいます。遠慮なくお申し出てください。



1月5日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

人 36人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ
 マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガ
 モ ハンビロガモ ホシハジロ トビ コジュケイ
 タゲリ タシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ
 セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
 ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジ
 ロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ム
 クドリ カケス オナガ ハンボソガラス ハシブ
 トガラス(34種)メジロが柿を食べるのを間近で、
 タゲリは順光で、じっくり観察できた。

1月12日(日) 熊谷市 大麻生

人 66人 天気 晴 鳥 コサギ アオサギ
 コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ トビ
 イカルチドリ ユリカモメ キジバト カワセミ
 アカゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セ
 グロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウ
 ビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ
 ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カ
 ワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガ
 ラス ハシブトガラス(34種)澄み渡る青空を鉤に
 なって飛ぶ37羽のコハクチョウ。……………!!

1月19日(日) 浦和市 三室地区

人 100人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ
 コガモ オナガガモ コジュケイ タカブシギ イ
 ソシギ タシギ ユリカモメ キジバト アオゲラ
 コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグ
 ロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビ
 タキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ
 メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒ
 ワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハ
 ンボソガラス ハシブトガラス(36種)雑木林に響
 き渡る、澄み切った鳴き声の主は、なんと!ここ
 では初登場のアオゲラだった。鳥合せの最中には、コ
 ゲラ、メジロ、シジュウカラが現われ、中断して、
 みんな注目。参加者数も鳥も最高の日だった。

1月26日(日) 千葉県 銚子、小見川

人 21人 天気 晴 鳥 カワウ ヒメウ ダ
 イサギ コサギ カルガモ オナガガモ シノリガ

モ ウミアイサ タゲリ ハマシギ イソシギ ユ
 リカモメ オオセグロカモメ シロカモメ カモメ
 ウミネコ ミツユビカモメ キジバト ヒバリ ハ
 クセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビ
 タキ イソヒヨドリ ツグミ ホオジロ コジュリ
 ン アオジ オオジュリン スズメ ムクドリ ハ
 ンボソガラス ハシブトガラス(35種)昨年、埼玉
 で話題になった、シノリガモやミツユビカモメも、
 ここでは当たり前。海の鳥がたっぷり楽しめた。

1月26日(日) 久喜市 久喜・菖蒲公園昭和池

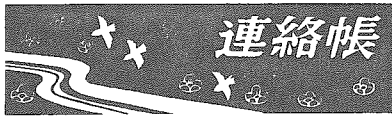
人 27人 天気 晴 鳥 カイツブリ マガモ
 カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨ
 シガモ ヒドリガモ オナガガモ ハンビロガモ
 ホシハジロ キンクロハジロ ハクセキレイ セグ
 ロセキレイ ヒヨドリ ツグミ シジュウカラ カ
 ワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス(21
 種)NHKの取材を受けるハブニング。トモエガモ、
 ヨシガモなどを寒風の中で楽しみ。昼食には、浅田
 徳次さんから温かいけんちん汁の差し入れ。おいし
 くておかわり!どうもありがとうございました。

2月2日(日) 本庄市 阪東大橋南詰

人 18人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ
 マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガ
 モ ヒドリガモ オナガガモ ハンビロガモ トビ
 ノスリ チョウゲンボウ イカルチドリ ハマシギ
 イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ キセケレ
 イ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒ
 ヨドリ モズ ツグミ ウグイス メジロ ホオジ
 ロ カシラダカ カワラヒワ スズメ ムクドリ
 ハンボソガラス ハシブトガラス(35種)ノスリが
 至近距離の杭や低木にとまって、色々なポーズで大
 サービス。みんな大喜び。

2月2日(日) 三芳町 多福寺

人 48人 天気 晴 鳥 ツミ ノスリ コジ
 ュケイ キジバト コゲラ ビンズイ ヒヨドリ
 ジョウビタキ ツグミ ウグイス キタイタダキ
 エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジ
 ロ アオジ クロジ カワラヒワ シメ スズメ
 ムクドリ カケス オナガ ハンボソガラス ハシ
 ブトガラス(26種)カケスが騒ぐのを見ていたら、
 同じ木にツミが。さすがに動じる様子もなかった。
 枝を横に歩くビンズイ、ホバリングして餌を取るキ
 クイタダキ……。大切にしたい雑木林。



会費の継続をお願いします

会費の切替え月に当たっている方や、まだ納入手続をすませている方、会費の継続納入をお願いします。ご寄付などもいただいておりますが、この『しらこぼと』の印刷代や送料など、ほとんどは会費でまかなわれています。1人の方の会費が、それだけ確実に支部活動の支えとなる事をご理解いただきたいと思います。

正会員 (年会費) 2,000円 家族会員 1,000円
ジュニア会員 1,000円 賛助会員 10,000円
探鳥会には名札をつけて

探鳥会や室内会など、支部の行事には、会員証を名札として胸につけ、ご参加ください。お互いの名前を知り合う事が、会員同士の横のつながりを強め、明るく活発な支部活動を生む第1歩です。名札着用の励行をお願いします。

巣箱教室と巣箱の寄贈

1月26日(日)大里郡妻沼町の服部学園ビノキオ幼稚園で、今井明巨幹事担当により、巣箱教室が開催されました。秩父愛鳥会から5人の手助けも受けて園児120人とその父母ら合計240人で、2時間かけて120個の巣箱を完成、それぞれの庭や裏山にかけるためによるこんで持帰りました。また、同幹事を通じて、28日には巣箱10個が熊谷市長に寄贈されました。市役所東側に建設中の「市中央公園」に設置されます。

お詫びと訂正

前月号の『しらこぼと』表紙の通巻番号が

「第17号」となっていました、これは「第21号」の誤りです。お詫びして訂正します。

会員数は、

2月20日現在673人です。

役員会の報告

1月18日(熊谷市) ①支部長新年のあいさつ「初心を忘れず、変らぬなごやかな会を」
②事務局と各部の報告、③4月までの行事、
④バードウィーク行事、⑤役員会の運営、⑥
全国支部代表者会議出席者、⑦その他。

次回役員会は、2月9日、熊谷市で。

事務局日誌

1月6日 コハクチョウの写真とメモを各新聞社に配布。

8日 狭山市立緑の相談所から、2月のパネル展について協力依頼。

14日 狭山市立中央児童館から、3月の野鳥観察会について協力依頼。

14日 本部にて各部と連絡、打合せ。

25日 『しらこぼと』2月号袋詰め作業(ボランティア10名)27日発送。



何やらわけのわからぬうちに、編集部に名を連ねることになってしまいました。お互い迷惑ではありますが(?)よろしくお願いします。それはともかく、何の気なしに出した年賀状が先月号に載ることを知った時には驚きました。今後は、私めがこのスリリングな体験を皆様におすそわけすることになるので (鈴木高士)

題字『しらこぼと』: 日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正済)

『しらこぼと』

1986年3月号(第22号)
発行人 今井昌彦

頒価100円(会費に含まれます)
発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 望月印刷株式会社

(無断転載を禁じます)